

筑波山の哺乳類

茨城動物研究会

はじめに

茨城県南地域における、哺乳類相に関する調査報告は数少ない。第一次総合調査の対象域である筑波山・霞ヶ浦地域においても傾向は同様である。

短い期間で広い範囲を網羅する哺乳類相調査は現実的ではないため、今回は、調査対象地域を筑波山地域に限定し、同地域の哺乳類目録を作成することを目的に調査を実施した。

生息情報調査

1. 調査地域

つくば市北東部、真壁町南部、八郷町西部の一带に設定した。具体的には、筑波山頂を中心に、北は真壁町羽鳥、西はつくば市酒寄～上菅間、南はつくば市沼田、東は八郷町の風返峠付近までの地域を対象とした。以下、哺乳類に関する本報告において「筑波山地域」と記述した場合は、この範囲を指し示している。

2. 調査方法及び期間

用いた調査方法は以下のとおりであった。また調査期間は、1995年から1997年の3年間で、このうち、野外調査（現地踏査及び聞き取り調査）に費やした日数は、計11日間であった。

(1) 文献調査

市町村誌、環境アセスメント報告書、学術文献、郷土書籍などを対象に、哺乳類生息情報の文献収集を試みた。

(2) 現地踏査

筑波山の男体・女体各山頂付近、男体山山頂から北・北北西・南西へ下る各ルート、ケーブル沿いの登山道、中腹の風返峠と筑波山神社周辺、裾野のつくば市上郷、下郷、沼田、真壁町羽鳥、つくば市菅間の桜川河川敷の各地点に踏査コースを設定し、哺乳類の生活痕跡（糞、足跡、巣、食痕など）の発見につとめた。

(3) 聞き取り調査

現地踏査と並行して、周辺住民への哺乳類の生息情報の聞き取り調査を行った。哺乳類の目撃経験、狩猟経験、家や田畑などへ被害がある場合はその状況などについて記録した。

なお、分類および学名については、自然環境研究セ

ンター（1994）に従ったが、一部の目および科名については、従来の分類名を使用した。

3. 結果

各調査結果を総合して、筑波山地域に生息することが確認された哺乳類のリストは表1のとおりであった。なお、リストにはトラップ調査による結果も含むが、この点についての詳細は別項で詳しく述べる。

それぞれの調査法ごとの種の確認状況を以下に示す。

(1) 文献調査

哺乳類について解説された市町村誌は発見できなかった。環境アセスメント調査報告の関係では、唯一、「筑波自然公園学術調査報告」（日本自然保護協会、1966）に概説的な種の記載があった。その他、筑波山を紹介する一般書籍の一項に、哺乳類に関する記述が見られた（島山、1940；木村、1959）。

(2) 現地踏査

延べ18ルートの踏査の結果、表2のような結果が得られた。

(3) 聞き取り調査

ユースホステル、筑波山神社、ケーブル会社の各職員、真壁町住民など、20人から聞き取り調査を行った。非協力的な人や、動物に関心を示さない人など数名を除き、ほとんどの人が、a) タヌキ、イタチ、リス、ノウサギはよく見かける、b) イノシシの被害が多い、という内容の回答をした。具体的内容の主なものを、表3にまとめた。

4. 生息確認種の概況

(1) イノシシ

筑波山地域に生息する唯一の大型哺乳類。目撃情報も多く、足跡や糞も記録された。農作物被害があり、駆除対策がとられている。茨城県環境政策課の統計によると、ここ5年間は、毎年5～10個体程度がその対象となっている。

(2) タヌキ

筑波山地域に広く分布する。狩猟の他、本調査中にも、住民の生け捕り（1994年）や餌付けの例があった。多くの家庭に剥製が保存されている。車道での交

表1. 筑波山地域で生息情報が得られた哺乳類リスト.

目	科	和名	学名	確認方法			
				文献	聞き取り	踏査	トラップ
食虫目	トガリネズミ科	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>				○
	モグラ科	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>			坑道	
		アズマモグラ	<i>Mogera wogura</i>	○		塚	
翼手目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	○		目撃	
	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>	○			
		ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	○			
ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○	○	糞, 足跡, 目撃	
齧歯目	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	○	○	食痕, 目撃	
		ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	○	○	糞, 食痕, 鳴き声	
		ホンドモモンガ	<i>Pteromys momonga</i>	○			
		ネズミ科	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		○	死体
		アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	○			○
		ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	○			○
		カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>			巣, 目撃	○
		クマネズミ属の1種	<i>Rattus sp.</i>		○		
		ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	○		糞, 巣穴, 食痕	○
	食肉目	イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○	○	死体, 糞, 足跡
キツネ			<i>Vulpes vulpes</i>	○	○		
イタチ科		イタチ	<i>Mustela itatsi</i>	○	○	糞	
		テン	<i>Martes melampus</i>	○	○		
		アナグマ	<i>Meles meles</i>	○	○		
ジャコウネコ科		ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>		○		
偶蹄目		イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○	○	糞, 足跡, 食痕

表2. 筑波山地域での痕跡踏査による哺乳類の生息確認状況 (1995-97年).

調査日	踏査ルート	確認種
950913	真壁~ユースホテル	リス(食痕), ヒミズ(坑道), モグラ(塚)
	真壁町羽鳥周辺	ハツカネズミ(死体)
950914	ユースホテル~男体山山頂	ヒミズ(坑道), イタチ(糞)
960119	筑波山神社周辺	ムササビ(巣穴・食痕), イタチ(糞), タヌキため(糞)
960129	ケーブルカー軌道沿い	リス(食痕), ムササビ(糞), イタチ(糞), ノウサギ(足跡)
960226	つくば市下郷周辺	ノウサギ(糞), イノシシ(体こすり痕)
	筑波山神社周辺	ムササビ(糞)
	男体山山頂から北北西へ下る	ノウサギ(足跡), タヌキ(足跡・死体)
960528	男体山山頂付近	モグラ(塚)
961019	つくば市沼田~筑波山神社	タヌキ(死体)
961109	つくば市上菅間の桜川河川敷	ハタネズミ(坑道・食痕), カヤネズミ(巣), カヤネズミ(目撃)
	風返峠	ノウサギ(糞), イノシシ(足跡), ハタネズミ(坑道・食痕)
	真壁~ユースホテル	ノウサギ(糞)
	つくば市上郷周辺	イタチ(糞)
961110	男体山山頂から南西へ下る	イタチ(糞), タヌキ(ため糞)
970529	つくば市沼田	ノウサギ(目撃)
970915	男体山山頂~女体山山頂	コウモリ類(糞・食痕)
	ケーブルカー軌道沿い	コウモリ類(糞・食痕), キクガシラコウモリ(目撃)

通事故が多く、本調査中も2個体の轢死体を確認し、そのうち1個体を採集した。林内の踏査中、数ヶ所でため糞が確認された他、雪上の足跡も多数確認された。

(3) キツネ

目撃情報は1件と少なく、糞や足跡など確かな痕跡は得られなかった。

(4) イタチ

遊歩道や林道において、多くの糞が採集された。糞の内容物からは、甲虫の外骨格や羽(クロナゴゴミムシ *Carabus procerulus* およびオサムシの仲間 *Carabidae* sp.), サクラ属の種子等が検出された。

(5) テン

山頂付近での目撃情報の他、本調査中に狩猟捕獲個

表3. 筑波山地域における地域住民よりの哺乳類生息情報に関する聞き取り調査結果 (1995-97年).

対象者	主な内容
真壁町住民A	夏から秋にかけて、イノシシに稲を食われる。ネズミに、倉庫の穀物を食われる。(殺鼠用粘着シートのハツカネズミ死体を提供)。
真壁町住民B	1994年秋にタヌキを生け捕りにした。
真壁町住民C	最近までタヌキを餌付けをしていた。
真壁町住民D (猟師)	タヌキは昔より増えたが、イノシシやリスは昔より減った。捕獲したことがあるのは、その他にイタチ、コクテン、ササグマなど。ハクビシンは10年くらい前に友人が獲った。家にハツカネズミは多いが、大きいネズミは少ない。
真壁町住民E (寺)	タヌキとジュウジムジナは、一年中7~9時頃、寺の裏山のけもの道から出てくる。キツネは春頃から、お墓の供物を食べに来ている。
真壁町住民F (製粉所)	大きいネズミがいるため、駆除会社に委託している。
ユースホステル職員	春に、ウサギのコドモを見かけた。常盤大学の鳥の先生が、山頂付近でテンを見たと言っていた。イノシシは、少し下の林内に巣が多い。
筑波山神社職員A	境内でムササビが飛ぶのを見た。
筑波山神社職員B	修行のためのイワヤで、コウモリを見る。
ケーブル運転手	イノシシは、5月頃はよく瓜坊(子供)をつれてくる。
旧筑波山測候所職員	アナグマとスステン(剥製)を、旧測候所に昭和40年代まで展示し、その後地元の小中学校に寄付した。

体の寄贈が博物館にあった。また、筑波山測候所において、1960年代後半まで剥製を展示していたとの記録がある(木村, 1959)。同測候所の元職員からの聞き取りでも、同様の情報を入手した。

(6) アナグマ

地元住民は、ムジナ、ジュウジムジナ、ササグマなどと呼び、タヌキと区別をしていた。また住民による目撃例や狩猟記録も得られた。踏査において、生活痕跡は得られなかった。テンと同様、剥製が筑波山測候所に1960年代後半まで展示されていた(木村, 1959)。

(7) ハクビシン

猟師によれば、10年位前にその友人が捕獲し剥製にしたとのことだが、たしかな証拠は得られなかった。

(8) ノウサギ

目撃情報も多く、また糞も雪上の足跡も多数確認された。目撃証言では、冬期中の茶色い個体の目撃が複数例あり、亜種であるキュウシュウノウサギ *L. b. brachyurus* と考えられた。踏査では、1997年6月に目撃した。

(9) ニホンリス

筑波山の北斜面には、アカマツ林が広範囲にあり、踏査したほぼ全域でアカマツの球果からリスに特徴的な食痕が確認された。目撃情報も多く、生息数は多いと考えられる。

(10) ムササビ

筑波山神社の境内で、糞やスダジイ堅果の食痕が採集された他、夜間に鳴声を確認した。巣として利用されていると思われる樹洞も見られ、また目撃情報も複

数例得られた。

(11) ハツカネズミ

真壁町羽鳥の民家で、家庭用粘着ネズミ取り器にかかっていた2個体を得た。倉庫の穀物に被害があるとの情報があり、また周辺には多数の穴があったため1995年9月13日にワナを11個設置したが、捕獲には至らなかった。

(12) クマネズミ属の1種

真壁町の製粉所で、大きなネズミがいるとの情報があったが、ドブネズミ・クマネズミ2種のうちどちらかの特定はできなかった。

(13) キクガシラコウモリ

筑波山神社において古くから修行に利用されている「岩屋」の6カ所で、昆虫の羽などコウモリ類の食痕と糞が見られた。そのうち、「不動のイワヤ」と呼ばれる場所で、2個体のキクガシラコウモリを確認した。

(14) モグラ

筑波山頂付近から裾野まで、広範囲にわたってモグラ塚が確認された。

(15) ヒミズ

筑波山北斜面の、山頂~中腹付近に、数多くの坑道が確認された。

トラップ調査

聞き取り調査等では確認の難しい小型哺乳類については、補足のためのトラップによる捕獲調査を行った。

表4. 筑波山地域におけるトラップによる小型哺乳類の捕獲調査結果 (1995-96年).

調査日	ワナ設置地点 (標高)	ワナタイプ	設置数	捕獲種	捕獲個体数
950906	筑波山北斜面 (350m)	シャーマン	32	アカネズミ	3 (♂2♀1)
950914	筑波山北斜面 (580m)	シャーマン	32	アカネズミ	5 (♂4♀1)
960528	筑波山男体山頂 (820m)	シャーマン	25	アカネズミ	1 (♀1)
				ヒメネズミ	4 (♂3♀1)
961109	風返峠 (410m)	パンチュー	34	アカネズミ	5 (♂2♀3)
				ヒメネズミ	1 (♂1)
961109	桜川河川敷 (20m)	シャーマン	38	アカネズミ	19 (♂10♀7不明2)
		パンチュー	50	カヤネズミ	7 (♂2♀4不明1)
				ハタネズミ	4 (♀4)
				ジネズミ	1 (不明1)

表5. 筑波山地域においてトラップにより捕獲されたネズミ類の外部計測値 (1995-96年).

種名	性別	体重 (g)	頭胴長 (mm)	尾長	後足長	耳長
アカネズミ	♂	39.0	未計測	101	23.0	15.0
アカネズミ	♂	36.2	113	98	21.8	13.3
アカネズミ	♂	51.9	118	106	22.3	15.2
アカネズミ	♂	35.1	104	92	23.7	13.6
アカネズミ	♀	32.0	未計測	99	22.2	14.9
アカネズミ	♀	30.2	104	81	21.5	14.3
ヒメネズミ	♂	14.7	81	*58	19.5	13.8
ヒメネズミ	♂	14.0	80	84	18.4	14.1
ヒメネズミ	♂	16.5	82	*74	17.7	13.9

*印は、尾が途中で切断されていたものを示す。

1. 調査地域

調査地点を、1) 男体山山頂付近のブナを含む落葉広葉樹林、2) 風返峠付近の草地、3) 筑波山北斜面 (真壁側) のミズナラ・カエデ林、4) 筑波山北斜面 (真壁側) のミズナラ林、5) つくば市上菅間の桜川河川敷のススキなどが優占する草地の計5ヶ所に設定した。

2. 調査方法

調査は、1995年9月6日～1996年11月9日の間に4回実施した。捕獲には、生け捕りワナ (シャーマン) と捕殺ワナ (パンチュー) を用い、誘因餌には生ピーナッツを使用した。ワナはすべて日中に設置し、翌朝に回収した。捕獲個体については、種名と性別を記録し、可能な個体については外部計測を行った。また各種、数個体ずつを標本として保存した他は、捕獲地点で再放逐した。

3. 結果及び考察

捕獲結果を表4に、また捕獲個体の計測値を表5に示した。捕獲された種の概況は以下のとおりであった。

(1) アカネズミ及びヒメネズミ

アカネズミは捕獲調査地5ヶ所すべてで、計33個体が捕獲された。筑波山においては、北斜面下方のア

カマツ林以外ほぼ全域に生息すると考えられる。一方、ヒメネズミは、男体山頂近くで4個体、風返峠で1個体、計2ヶ所で5個体捕獲されたのみであった。ヒメネズミが標高の高い落葉広葉樹林を好む性質を反映した結果と考えられた。

(2) カヤネズミ

桜川河川敷の草地でのみ7個体が捕獲された。また、同地点には新旧の球巣が多数確認できた。育児中で、中に子が存在する巣も1例確認された (1996年11月9日)。なお同地点は、1997年3月に野焼きされた。

(3) ハタネズミ

桜川河川敷の草地で、4個体が捕獲された。また、風返峠の草地では、網目状の坑道や食痕が確認された。

(4) ジネズミ

桜川河川敷にて、1個体が捕獲された。

総論

短期間の調査であったが、本調査によって、筑波山地域において23種の哺乳類の生息が確認された。ただし、古い文献記述のみのホンドモモンガ、アブラコウモリ、ヤマコウモリの3種と、文献及び聞き取り調査以外での情報が得られなかったキツネ、アナグマ、ハクビシンの3種については、現在の生息状況に不明な点を残した。また、クマネズミ属については、種

の確認までは至らなかった。

今回、きわめて概略的ながら、筑波山地域の哺乳類生息情報の整理を行ったが、今後は、筑波山地域の、動物生息環境としての質を評価していく目的での、さらに精査な調査研究が求められる。三戸（1989）によれば、東北帝国大学医学部が1923年に実施したアンケート調査では、筑波山中で野猿の出没を時折見かけるとある。現在、筑波山地域にサルは生息しないが、サルのように広葉樹に依存した生活タイプを持つ動物が絶滅していった背景には、生息環境の質の変化も考えられる。現在、筑波山地域にスギやアカマツといった人工林が占める割合は、かなりの高率だからである。

今後、筑波山地域を含む、県南地方の哺乳類情報を適切に蓄積していくためには、継続的でより広範な調査研究体制の整備が求められる。ただし、茨城県内に哺乳類に関わる調査を行う人材があまりに少ないことが、これからの大きな問題として指摘できる。

謝辞

筑波山神社の矢作幸雄氏には、現地調査の便宜をは

かっていただいた。また小柳恭二、辻 明子の両氏には、コウモリ類の現地調査への同行と指導をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 島山久重. 1940. 筑波誌（後編）. 46 pp., 筑波山神社社務所, 茨城.
- 木村 繁. 1959. 筑波山. 336 pp., 輪書房, 千葉.
- 日本自然保護協会（編）. 1966. 筑波自然公園学術調査報告. 104 pp., 日本自然保護協会, 東京.
- 自然環境研究センター（編）. 1994. 日本の哺乳類. 195 pp., 東海大学出版会, 東京.
- 三戸幸久. 1989. 大正十二年東北帝国大学医学部による全国ニホンザル生息状況のアンケート調査に対する各郡、支庁、島の回答資料（東日本編）. 202 pp., 日本モンキーセンター, 愛知.

調査者及び執筆者

小泉祐里（財）東京動物園協会）

山崎晃司（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）